

報告

地域コミュニティと女性のリーダーシップ

～復興支援の現場から～

平成28年に女性活躍推進法が施行され、女性リーダーの育成に注目が集まっています。NPO法人ウィメンズアイ代表理事の石本めぐみさんをお迎えして、災害時に強いまちづくりや女性のリーダーシップについてお話いただきました。



ウィメンズアイの活動

NPO法人ウィメンズアイは、東日本大震災後の三陸沿岸部に災害ボランティアとして集まった有志で立ち上げた女性支援の団体で、2011年5月に活動をスタートしました。女性が自らを活かし元気に活躍できることをビジョンに掲げ、草の根で地域の活動をする女性たちのキャパシティビルディング（組織的な能力をつけること）に重点を置いた活動をしています。

孤立を防ぎ、日常の中にセーフティネットをつくる

東日本大震災では、公民館、集会所、商店など人が集う場が失われました。「震災後、みんなバラバラになってしまった」という声を聞き、まちが復興していくには、人をつなぎ直すことが優先と考え、趣味、関心、課題など参加者がテーマで集い、知り合うきっかけを提供するテーマ型コミュニティ事業を実施しています。例えば、シングルマザー親子の会や次世代女性リーダー育成などの課題解決型事業や、刺し子や編み物などの趣味・お楽しみ事業など、参加したくなる楽しさのある集まりを数多く実施しています。

これらの講座では、参加者数などの数字と参加者による話の内容から見えてくる課題を記録し、分析することにも注力しました。小さな集まりだからこそ聞ける貴重な声を蓄積することで、課題を見だし、発信していくことが出来ます。

女性たちの小さなコミュニティが沢山つながっていく手法が評価され、2015年UNISDR（国連国際防災戦略事務局）から世界の12事例に選ばれました。

リーダーとしての学びと取組み

石本さんは、NPOの代表理事として日々リーダーシップを発揮するだけでなく、海外での研修にも積極的に参加し、女性のリーダーシップ育成について学んでいます。2017年6月に参加した「グローバル女性リーダーシップ研修」では、次世代のリーダーシップの鍵となる価値観として、Empathy(共感)、Vulnerability(自分の中の弱さを認めること)、Collaboration(協働)、Flexibility(柔軟性)、Patience(待つ力)の5つの価値観が打ち出されました。この研修は、NPOと企業が協働で開催し、NPOや社会起業家、企業で働く人、政治家など26か国から50名が参加しました。企業も生き残るために必要な力として、これらの“ソフト”な価値観を打ち出しているのです。従来型の強いリーダーシップに変わる、新しいリーダーシップのあり方が主流になってきています。